

どーらく 改題 逆説土楽たより

断捨離考

10月号(NO25)通巻175号

2020年10月10日(土)発行(毎月10日)

【農暦】仲秋の名月を愛でたい！

○やっと暑さから解放された。お彼岸を過ぎると凌ぎ易い。1日は仲秋の名月(旧暦8月15日の満月)であった。数年前まではススキに十五夜草(紫苑)や柿などお供えしたことが思い出した。お供えするのも忘れていた。愛でる気持ちの余裕がなくなっている。最近十五夜草を見かけない。植込みしているようで、彼岸花(曼珠沙華)はよく見かける。

○金木犀の花が咲く。強い甘い香り?がどこからとなく香って来て、秋になったことを知る。好きな香りである。お月見の習慣も廃れてしまったが、十三夜から二十夜まで月の名をつけて昔人は月を愛でていた。十六夜(いざよい)などまでは馴染みがある。小望月(十四夜)立待月(十七夜)は余り知れていない。

○“十六夜の独り言だったか(朝日3日の素粒子)”の書き出しで、“必要なのは賛成、異論は不用”“相手は排除の理由を付度し、異論を自粛するようになる。”最後に“これが政治さ”とあった。十六夜に、こんな独り言が出る社会では、名月を愛でる雰囲気にはなれない。世相も、それにコロナもある。心の余裕を失っている。言うまでもないが、菅総理の本学術会議の任命排除ことである。

○畑の周りの蔓の刈り取りをする。まだ多く残っていた続きである。それから、黒豆、葱などの畝の草とり、小豆、落花生に入り込んだ薩摩芋の伸びすぎた蔓の刈り取りなどを続けている。2日には薩摩芋の収穫をした。薩摩芋の蔓の刈り取り、そして、掘り起しなど、想像以上の作業量に感じた。右手の腱鞘炎を更に悪化させてしまった。これからは農作業日和が続くそうだが体力と相談しながら、思っている。

○“柿の実が秋の絵になる餌になる”川柳の会で詠んだものである。柿が好きで、柿の木を覆い始めていた蔓を刈り取りなどして、食べるのを楽しみにしていた。たわわではないが多くの実を付けていた。だが、ひとつ残らず無くなっていた。絵にも鳥の餌にもならなかった。心無い人のお腹に納まったようである。鳥なら取り分があるのだが。残念である。(了)

【楽農】<畑>薩摩芋、菊、トマト、茄子、ピーマンを少々収穫。蔓&草刈り。

【楽市】イベントなど;松戸会(14日)共生の会(1日)川柳の会(1日)。



<仲秋の名月>ベランダから。
撮影難あり。1日撮影



<薩摩芋>大き過ぎ、2日に収穫。
3日撮影

【つぶやき=Tweet】 ポジテブでないとなりに繋がらない！

○NHKの朝ドラ「エール」を見ていて怖くなる。非国民と仲間内から言われるのを聞くと、今話題になる「同調圧力」のことを連想してしまう。自粛警察という言葉まである。ネガティブシンキングからポジティブシンキングに変えようとしていたのに、エールを見てネガティブになってしまった。今の社会状況に、いつからなったのだろう。考えてしまう。

○知識人やメディアが多数派に忖度するようになった（理念・正義感が持てない）こと。経済的貧困によって出身や階層で連帯できない（仲間意識形成困難）こと。格差故に若い世代（学生）が本を読み、人生や政治を考えなくなった（夢が持てない）ことなど*の社会状況が作られたのだと思う。*24日朝日論壇時評の文言から。

○政治離れする中で公明党の支持が安倍長期政権には大きかった。小泉政権から社会が変わった。自民党は、かつての自民党でなくなっていた。安倍政権は更に大きく変えた。社会も変わった。茹でカエルの喩えではないが、気が付いた時にはとんでもない国になっていたでは。朝ドラの「エール」がリアルなものに感じ、怖い。

○「非正規歌人」として知られる萩原慎一郎の歌集「滑走路」がロングセラーになっている。映画化され来月には公開されるという。非正規雇用の人々の心の叫びが共感を呼んでいるようである。若い世代が夢を持ちづらい社会になっている証しに思えてならない。菅総理は自助共助公助と言うが、自助が難しい社会になっている。自助しないのは非国民と言われる社会を怖れる。忖度が社会に蔓延したら怖い。その時はこの世にはいない？が、これからの世代の人が心配である。

○次の世代のことでは、温暖化もあるが、膨らんだ国の借金（国債）約1100兆円のことがある。ネットに、国債は9割が国内だからいい、お札を刷ればいいの暴論がある。それなら税をとらないで刷ればよい事になる。金本位制から国際基準通貨（ポンド・ドル）、為替が、何故あったか考えれば判ることである。ネットは怖い情報が多いが、ネットは時代の流れである。ネット弱者だが、共感できるサイトも多い。ポジティブな話に戻したい。

○最近では俳句、川柳、短歌がチョットしたブームになっている。俳句の夏井いつきのテレビは面白い。ブームを後押ししている。良い事である。新聞でも、よく見るようになった。特に川柳は時機を逸せず直ぐ詠まれている。クスとする。そうだそうだと思うものが多い。世相を詠むことで、ポジティブにと。ポジティブでないとなりに繋がらない。（了）

○断捨離考： 試行錯誤を繰り返している。少しずつ継続しているが、少し大胆に進めたい。

【後記】 仲秋の名月を愛でる心を持ちたい。芋名月とも言う。芋を食べるぞ！

【編集せざラダム構成】



<彼岸花> 柏での、いつもの散歩道で。最近白も。5日撮影

発行者；小暮虎雄

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話；090-9333-4135

HP；kogure農場

メール；torao-k@nifty.com